

イネのしいな症状を発生させるイネカメムシの加害時期と殺虫剤の散布適期

利用対象：県内の水稲生産者

- 県内の中晩生品種のイネでは、**イネカメムシ**の加害が原因と考えられる**不稔症状や、斑点米の発生が増加**しています
- イネカメムシの生態を理解し、本田において**適期に殺虫剤を散布**しましょう

1. イネカメムシによる被害の特徴

- 登熟初期に加害を受けると、**不稔症状が発生**します
- 登熟中後期に加害を受けると、基部に加害痕のある**斑点米が発生**します



不稔症状



斑点米

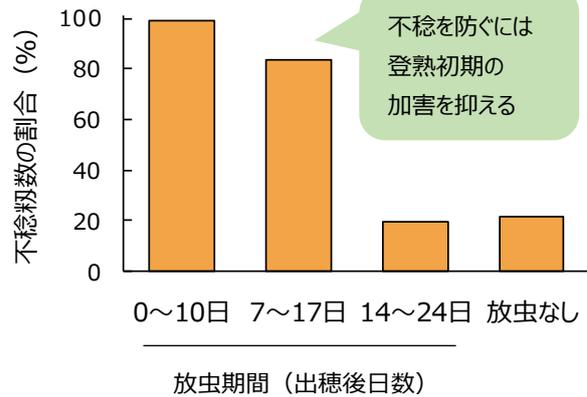
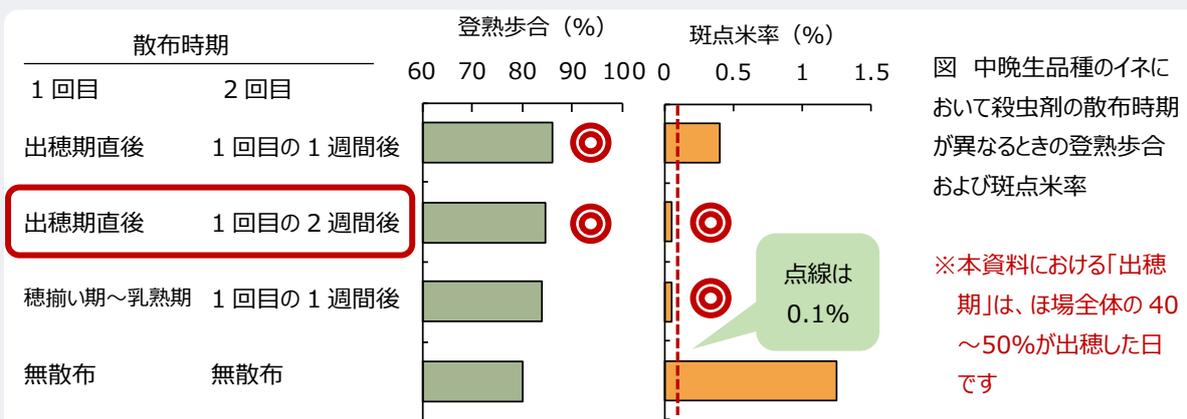


図 イネカメムシ成虫を1頭/穂の割合で時期別に放虫したときの、不稔症状を表した籾の割合

2. イネカメムシによる不稔症状および斑点米の発生を抑えるための殺虫剤の散布適期

- **出穂期直後**に1回目の散布を行い、不稔症状を抑制します
- **その2週間後(収穫3週間前)**に2回目の散布を行い、斑点米の発生を抑制します



※本資料における「出穂期」は、ほ場全体の40~50%が出穂した日です

お問い合わせ先	基盤技術研究室 農産物安全安心研究課 田中千晴 電話 0598-42-6360 中央農業改良普及センター 加藤伸二 電話 0598-42-6323
参考になる資料	田中ら (2022) 関西病害虫研究会報64 : 134-136